

## 概要

目的	障害者による文化芸術活動に関する現状や課題を把握する。
対象者	障害のある文化芸術活動者（1者）、障害者の文化芸術活動支援者（2者）、障害者の文化芸術活動支援団体（2者）、障害者施設（4者）計9者
調査時期	令和4年8月8日(月)～令和4年9月28日(水)
調査方法	対面、オンライン対面
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術活動内容について</li> <li>・文化芸術活動を行う上での課題について</li> <li>・文化芸術振興で目指す滋賀の将来の姿について</li> <li>・県内の文化施設に求めるものについて</li> <li>・新型コロナウイルス感染症による文化芸術活動への影響について 等</li> </ul>

# 1 文化芸術活動を行う上での課題

- 障害者の文化芸術活動の推進に向けた普及は継続しないと消えてしまう。(支援団体)
- 障害者施設が展示した作品は、障害者の作った作品としか見られない。(支援団体)
- 文化芸術活動を活性化するためには、職員体制が必要。(障害者施設)
- 作品を発表する際に、情報保障を行わないといけないと思うが、人手やお金がない。(文化芸術活動者)
- 公演中に、施設利用者が立ち上がったり、声を発したりしないか障害者施設の職員は不安を感じる。(障害者施設)
- 施設の利用者の中には、多動の人が多く、動いたり話したりするので、文化施設に行くことに対して、施設職員側に勇気がいる。(障害者施設)
- 研修を開催しても、文化施設側の参加が少ない。(支援団体)

# 2 文化芸術振興でめざす滋賀の将来の姿

- 障害のある人とない人が当たり前において、配慮はあるけど、特別ではない状態。(障害者施設)
- 障害のある人が演奏会に鑑賞に行くと、受付で嫌な顔をされるので、そんなことが起こらない社会になってほしい。(支援者)
- 障害の有無にかかわらず、誰もが表現できたり、鑑賞にいくことができたらい。(支援者)
- 障害のある人の作品がひとり歩きするのではなく、作者にフォーカスされるようにしたい。それが、障害への理解につながる。(障害者施設)
- 「障害のある人の作品」という先入観を与えずに、作品自体を鑑賞してほしい。(支援団体)

### 3 県内の文化施設に求めるもの

- スロープがなく、会場に行きづらい。(支援者)
- トイレが狭く、車いすの人は利用しづらい。(支援者)
- 身体障害者用のトイレが無かったり、和式トイレしかないと施設を利用しづらい。(文化芸術活動者)
- 施設の舞台裏(バックヤード)がバリアフリー化している施設が少ない。(支援者)
- 車いす席の場所が決まってしまっている。施設の設計時に配慮してほしい。(文化芸術活動者)
- 親子ルームのような施設があればよい。(障害者施設)
- 休憩スペースがあればよい。文化芸術活動に参加できない人の居場所も作ってほしい。(障害者施設)

### 4 新型コロナウイルス感染症による文化芸術活動への影響

- 感染のリスクを負ってまで、作品作りをしようとしない。作品が作れていない。(支援団体)
- 施設の方針として、外出を控えているため、表現活動の発表ができない。(障害者施設)
- 障害のある人が出演者となるため、プログラムを中止した。(支援者)
- 表現活動の発表の機会が減少した。(文化芸術活動者)

### 5 必要な支援について

- 市町が障害者の文化芸術活動に取り組もうとしたときに、県が支援できるものがあれば、市町の意識も変わるかもしれない。(支援団体)
- 活動の周知や資金援助(支援者)
- 専門用語が分からないため、研修する機会がほしい。(文化芸術活動者)
- 創作活動や鑑賞するための支援(助成)がほしい。(障害者施設)
- 障害のある人の作品を定期的に紹介する展覧会などを開催してほしい。(障害者施設)